

1. 実況上の着目点

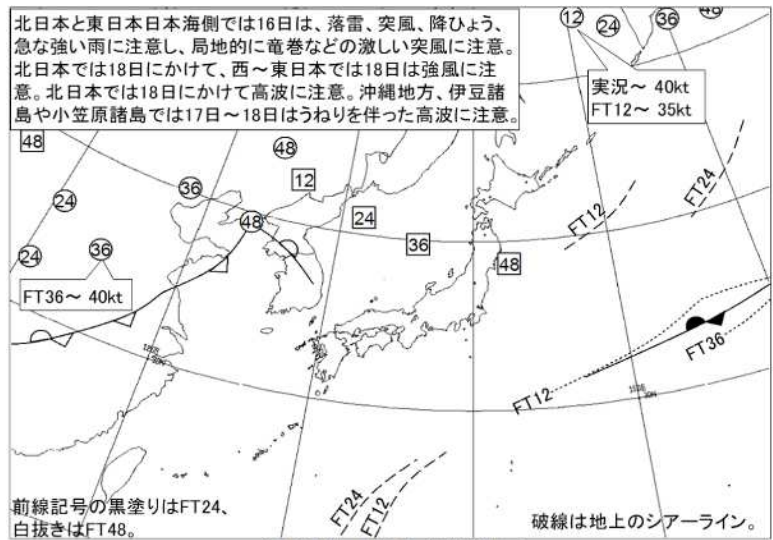
① オホーツク海の低気圧は寒冷渦直下となって発達が終わっているが、スケールが大きく、動きが遅いため、低気圧周辺の北日本では強い風や高い波を観測している所がある。

② 500hPa 5520m付近と5700m付近の強風軸が水蒸気画像の暗域境界で確認でき、北海道地方と東北地方に下層風収束を伴う気圧の谷に沿って対流雲が発達。発雷を検知。

③ 本州付近は高気圧に覆われて晴れている所が多い。高気圧の周辺の流れに

沿って奄美地方から九州の西にかけて対流雲列があり、周辺海域で激しい～非常に激しい雨を解析。発雷するほど不安定ではないが、動きが遅いので注意。また、500hPa5820m付近のトラフに伴う雲域が西日本に拡大中で、降水エコーがかかっている所もあるが、雨量計の観測はほとんどない。09時ゾンデ観測では中下層がよく乾いており、降水粒子は概ね地上に達していないものとみられる。

④ 15日まで熱帯低気圧を解析していた雲渦が日本の南を西進。その北東側は気圧の谷となっている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項②の気圧の谷は、夜には北日本の東海上に抜ける。夕方には上層トラフも通過して対流雲は不活発になりながら、トラフ西側を大陸から張り出してくる高気圧の影響で東日本の日本海側に移り、17日朝には高気圧に覆われて消散する。北日本と東日本日本海側では引き続き16日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項①の低気圧、2項①の気圧の谷、2項①の高気圧の張り出しの影響で気圧の傾きが大きく、北日本では18日にかけて、風が強く、波が高い所がある。北日本では18日にかけて強風、高波に注意。高気圧に対応するリッジは、19日頃に南下してくる次の寒冷渦と1項①の寒冷渦の間で明瞭となる傾向で、高気圧は18日にかけて勢力を増す見込み。この高気圧の南側では吹送距離の長い東よりのやや強い風が持続するため、沖縄地方、伊豆諸島や小笠原諸島では17日から18日にかけて、うねりを伴う高波に注意。また、高気圧の西側では下層暖気移流が広い範囲で強まり、トラフの接近に伴い低気圧が大陸で発達し、18日には前線を伴って黄海から日本海に進む。これに伴い、西～東日本では18日には南よりの風が強く吹く所がある。西～東日本では18日は、強風に注意。なお、18日からは850hPaの気温が全国的に平年よりも高くなり、地上気温も高くなる所が多い。

③ 1項③の対流雲列や1項④の雲渦は、高気圧の張り出しに伴い、島を含む陸から遠ざかる見込みだが、対流雲列に目先近い奄美地方や雲渦に近くなる大東島地方などでは対流雲の動向に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。

②波浪(明日まで)：北海道・伊豆諸島・沖縄 3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。